

酪農試験場だより

No. 50



新規導入の近赤外分析装置

内容紹介

1. これからどうする！酪農経営 — 新たな飛躍のR&D
2. グラスサイレージの調製
3. 愛牛は「モウ、いや」とは 聞いていませんか

これからどうする！ 酪農経営

—— 新たなる飛躍のために ——



本県の酪農は、誠実で勤勉なみなさま方が、めぐまれた自然条件と首都圏に位置するという地理的条件を最大限に活かして生産に取り組んだ結果、全国屈指の生産量と誇る産業に発展してきました。

しかし、最近の酪農を取り巻く情勢には農村社会の都市化、従業者の高齢化と後継者不足、さらには生乳・乳製品需給の不均衡、乳価の低迷、牛肉の輸入自由化にともなう子牛や廃牛価格の暴落などいろいろな問題が山積みしており、21世紀に向けての新たな飛躍を図る上で、これらの問題解決は避けて通れない重要な課題となっています。

特に、農産物輸入の例外なき関税化が議論されているウルグアイラウンドの結果いかんでは、さらに厳しい対応が要求されることか予測されます。したがって、今後の酪農経営は環境保全に配慮しながら、消費者のニーズに対応した安全で高品質な牛乳を低コストで生産すると同時に、経営そのものにより一層の活気とゆとりを与え、魅力的に展開することが益々重要になってきます。

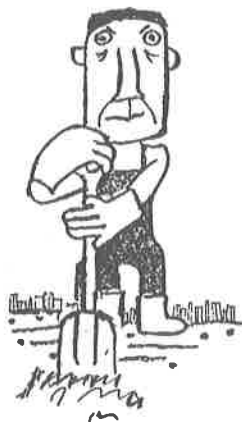
そのためには、当面、経営の大規模化にともなう飼料自給率の低下、個体管理の不徹底さに由来する不合理な飼料給与、繁殖障害など技術的問題の解決を図るほか、ヘルパー制度の充実、糞尿処理や機械施設に対する過剰投資の問題などに関係者が一丸となって当たり、広範な視点に立っての取組みが必要になります。

都市化した農村社会の中で、専門化や多頭化によって発生したこれらの問題は、例えば糞尿処理問題のように、地域内の米麦農家や園芸作物農家との協力、補完関係なくして解決できないものが多くなっています。

したがって、これらの解決に際しては、首都圏農業推進の一翼を担いながら、水田農業確立対策事業などと歩調を合わせ、地域農業確立の中から酪農の経営戦略を模索することが肝要と考えています。

酪農試験場はみなさまとともに歩みます。どうぞ、お気軽におこし下さい。

グラスサイレージの調製



栃木県内では牧草が約8800 ha栽培されており、そのうちの約70%がサイレージに調製されていると推定されます。ここでは時節柄、グラスサイレージ調製のポイントについてまとめてみました。

調製する際の注意すべき項目として刈取時期・水分・密封・踏圧・良質材料草の確保・細断・排汁処理などがありますが、その中でも特に刈取り時期と水分には気を配る必要があります。

まず刈取時期ですが、下表に示してあるとおりTDN含有率は穂ばらみ期を過ぎると急速に低下します。一方、乾物収量は生育が進むほど高収量となり、その結果TDN収量は出穂期が最も高くなります。開花期でも出穂期に近いTDN収量が得られますが、能力の高い現在の乳牛には開花期よりも消化性のよい出穂期のサイレージを確保することが大切です。今年は2月から4月にかけて気温が高かったため、イタリアンライグラスなど牧草の伸びはいつもの年よりも早まっています。牧草の生育状況をよく観察して出穂期に刈取ることをおすすめします。

次に水分ですが、イタリアンライグラスの出穂期の水分は85%程度です。このままの水分状態で詰めますと酪酸菌に適した水分条件となり、不良発酵による養分の損失、嗜好性の低下を招きます。予乾して水分を60~70%に下げると、乳酸菌の増殖に適した水分条件となり多量の乳酸が生成され、この酸が不良微生物の繁殖を阻止し、良質サイレージが調製できますのでできるだけ予乾に努めてください。

以上2項目のほか、サイレージ調製の基本を守って、良質サイレージを調製して下さい。

表 イタリアンライグラスサイレージ(1番草)の刈取時期と栄養価

刈取時期	TDN (乾物当り)	10a当り収量	
		乾物	TDN
穂ばらみ期	74.3%	355 kg	264 kg (81)
出穂期	66.2	489	324 (100)
開花期	57.0	548	312 (96)
糊熟期	51.7	568	294 (91)

() は指数

愛牛は「モウ、いや」とは 聞いていませんか



私は、毎日みなさんから与えられたエサを食べて体を維持し、乳や子牛の生産をしているミセスモウ子です。

最近、友人のシロ子さんから「私、毎日毎日体を削ってお乳を出しているの、困っちゃう！」とか、肉牛のクロ子さんから「もうすぐ子牛を産むんだけど、ウチの飼い主、大きい子牛を期待して餵きるほどエサをくれて、太り過ぎ」とかいう話を聞きます。

私たちはエサが不足の時には乳を出さないとか、エサが多過ぎる時には残して食べないとかという芸当はできません。

そこで、みなさんをお願いしたいことがあります。『エサの量やメニューは適当かどうか、もう一度検討していただきたい。』ということです。やせ過ぎや太り過ぎの牛が見えたら、エサがどうなっているかどうか疑ってみて欲しいということです。不安が残る場合は早速、下表の日程を見て最寄りの普及所に連絡を取り、酪農試験場の自給飼料分析を行い、あわせて給与診断を受けてください。自給飼料の質がよかったからといってOKとはいきません。

問題は給与診断です。いくら質の良いエサが出来ても給与量不足では悪いものを給与したのと同じことです。診断結果と検定成績や日頃の観察を基に一頭、一頭の牛に見合ったエサの給与に心がけて下さい。

なお、今年度からは、私の住む酪農試験場で、全草種について硝酸態窒素の分析を実施することになりました。「糞尿等の土壌還元が多すぎる人や、刈り取りが早や過ぎて心配だ。」などという人は、自給飼料分析のなかでいっしょに分析してみてもいいかでしょう。

表 平成4年度自給飼料分析指導事業受付日程

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
月日	4/14	5/11	6/9	7/6	7/27	8/17	9/21	10/19	11/16	12/7	1/11	2/9	3/9

酪農試験場だより No 50

栃木県酪農試験場

〒329-2701那須野町4本荘298

平成4年5月1日

電話 0287-36-0230